

e シンキング (ひとづくり広域連合政策情報メルマガ) 第 30 号
2007 / 4 / 16 発行 (月 1 回発行)

各職員に、転送または配布をお願いします。

【 目 次 】

今月のトピックス

「複線型社会」

広域連合からのお知らせ

平成 18 年度政策課題共同研究報告書

平成 19 年度政策課題共同研究テーマ決定 & 研究員募集

平成 19 年度政策研究発表会参加者募集

現場レポート

「自治大学校の半年間を通して」(投稿レポート)

私の選んだこの 1 冊

「コンプライアンスの考え方～信頼される企業経営のために～」

政策インフォメーション (New!)

「道州制を問う - 新たな府県と市町村 - 」

(第 4 回聖学院大学都市経営シンポジウム)

今月のトピックス

- - - 「複線型社会」 - - -

平成 18 年 9 月 29 日、安倍首相は所信表明演説にて「新たな日本が目指すべきは、努力した人が報われ、勝ち組と負け組が固定化せず、働き方、学び方、暮らし方が多様で複線化している社会」と述べ、同年 12 月 26 日、多様な機会のある社会推進会議にて、この複線型社会実現のために必要な施策の実効性・効率性を高めるための「再チャレンジ支援総合プラン」を発表しました。

この複線型社会は、具体的に『人生の各段階における働き方、学び方、暮ら

し方について選択肢の多様化』を意味し、その実現のためには『高齢者・団塊の世代の活躍の場』や『大学・専修学校等と地域の産業界等との連携による社会人の学び直しの機会の拡大』、『農林漁業への就職支援を始めとするUJIターンへの支援や二地域居住への支援等の推進』と、「日本経済の進路と戦略」（平成19年1月25日閣議決定）で表現されています。

ちなみに、UJIターンとは『自分のふるさとに戻る＝Uターン、都市出身者だが田舎に住みたい＝Iターン、ふるさと近くの都市に戻る＝Jターン』をまとめた表現で、国土交通省都市・地域整備局地方整備課ホームページでは、このUJIターンを歓迎する全国市町村が紹介されています。埼玉県でも、この4月から団塊世代活動支援センターがオープンするなど、「複線型社会」への取組が各方面で展開されつつあります。このような取組により、自立した個人が支え合い、若者も高齢者も共に輝く活力ある複線型社会が形成されることで、これからの人口減少時代を乗り越える礎となっていくのではと思います。
(B)

広域連合からのお知らせ

平成18年度政策課題共同研究報告書

彩の国さいたま人づくり広域連合では、自治体が直面する政策課題について、広域連合構成団体（県、市町村）職員等が共同で調査研究を行っています。

平成18年度は、下記の2テーマについて研究し、報告書をまとめました。

- ・ 豊かな人口減少社会に向けて
- ・ 自治体と『企業・大学・NPO』との連携

報告書は、県庁主管課、各市町村研修担当に配布させていただきましたのでご覧ください。また、業務で利用される場合は無償で、それ以外の場合については1冊500円での有償にてご提供しております。なお、入手方法につきましては直接お問い合わせいただくか、下記ホームページをご覧ください。

報告書の入手方法については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/top.htm>

報告書概要版については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/sum/H18sum.htm>

平成19年度政策課題共同研究テーマ決定 & 研究員募集

平成19年度は、構成団体からの提案に基づきテーマを選定し、下記の2テーマを研究することになりました。

- ・ ワーク・ライフ・バランスと組織の活性化

- ・ これからの地域公共施設の役割・機能について

また、あわせて研究員も募集いたします。日頃より上記テーマに関心がある、または他団体の人達と共同で研究してみたいという方は、是非ご参加ください。

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H19/H19.htm>

研究員募集の詳細は

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H19/bosyu.htm>

平成19年度政策研究発表会参加者募集！

現在、平成19年度政策課題共同研究・行政課題研究発表会の参加者を募集しておりますので、是非とも奮ってご参加ください。なお、参加希望の方は下のリンク先の様式でお申し込みください。

日時 平成19年6月1日(金) 13:00～16:30

会場 埼玉県県民健康センター 2階 大ホール

(JR浦和駅西口徒歩15分、県庁第2庁舎北となり)

内容 (1)平成18年度政策課題共同研究(2テーマ)の成果発表
及び行政課題研究(1テーマ)の研究報告

(2)基調講演

テーマ：「(仮題)多様な担い手との協働による地域経営」

講師：明治大学政治経済学部教授 牛山 久仁彦 氏

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/03/H19/H19.htm>

=====

現場レポート

「自治大学校の半年間を通して」

自治大学校(第1課程107期) 浅見 路加寿(埼玉県職員)

入学式直後、自分の席に「六法全書」、「判例六法」、「地方自治小六法」と共に授業で使用するテキスト類が20冊ほど置かれているのを見て、半年間やっていけるのか本当に不安になりました。しかし、その日の午後から、そのような感傷的な気分をうち消すかのように、猛烈な授業が始まりました。学校を卒業して、かなりの時間が経っている研修生にとっては、1コマ70分の授業でも辛いと感じる者も多く、同じ講義が丸一日続く日は限界に挑戦する思いでした。

自治大の授業は、講義形式の授業と演習とに分けることができます。

講義形式の授業においては、なかなか話を聞くことができないような著名人を講師として招いて講義を行うことが多く、授業が終了しても、質問や記念サインをいただくため講師室に押しかけている研修生をたくさん見ました。行政学の講義を持っている大森彌教授（東大名誉教授）がインフルエンザでダウンしたときにピンチヒッターとして講義を行ったのは、日経など新聞のコラム欄に良く登場する小西佐千夫教授（関西学院大学）でした。自治大が長年培ってきた信用に裏付けされている、その講師陣の層の厚さには本当に驚かされました。

また演習には、政策形成能力を養成することを目的とした政策課題演習や条例の解釈などを通して理解力を深めていく地方行政演習などがありますが、どれも実践的な論理立てを要求され、中途半端な解釈では太刀打ちできません。教官からの指導事項を整理するために徹夜せざるを得ないこともよくありましたが、何とか切り抜けてこれました。どれだけ自分が努力しても、仲間と議論した方がずっと優れた考えにまとまることもあり、議論をすることの大切さを改めて思い知らされた気がしました。

自治大での半年間では様々な体験をしてきましたが、ここで得たものを大いに利用し、これからの仕事に存分に活かしていきたいと思います。

私の選んだこの1冊

「コンプライアンスの考え方～信頼される企業経営のために～」

浜辺陽一郎著 / 中央公論新社

皆さんは、「コンプライアンス」という言葉はご存じですか？

言葉自体は聞いたことがあっても、言葉の正確な意味がわかる方は少ないのでは？（と思っているのは私だけでしょうか？）

かくいう私は、「コンプライアンス」という言葉を、現在の所属（自治人材開発センター）に配属され、「公務員倫理」という研修を担当して初めて知り、もちろん言葉の意味するところもわかりませんでした。

この本には、「コンプライアンス」の本当の意味と、それをどう使いこなしていけばいいのかが具体的にわかりやすく書き記されています。民間企業における実践を前提に述べられていますが、公務員の世界にも十分適用できる実践方策です。

「コンプライアンス」は、日本語で「法令遵守」と訳されることが多いですが、実はそれだけではなく、その先にあるものが重要なんだと著者は述べてい

ます。その一つとして、「企業倫理」を取り上げています。ここで重要なのが、倫理や道徳というものは心の問題ではなく、意識してトレーニングを積み重ねなければならないということです。こうした考え方は、著者の言いたいことを如実に表しているところだと思います。

IT化の進展で企業(自治体)の不祥事があつという間に知れ渡るようになり、顧客(納税者)の要求は年々厳しくなっています。企業(自治体)は、「コンプライアンス」を推進し、より透明で健全な活動をしていくことが求められています。今後仕事をしていく上で、「コンプライアンス」という概念をアタマにたたき込んでおくことは必須です。この本がその端緒となればと思います。

なお、著者の浜辺氏は、今年度の主任研修「公務員倫理」の講師です。主任に昇任された皆さん、著者の考えをナマで聴くことを楽しみにしててください。(ハイ・ブリッジ)

政策インフォメーション (New!)

「道州制を問う - 新たな府県と市町村 - 」

(第4回聖学院大学都市経営シンポジウム)

今月の26日(木)、道州制をテーマにした、聖学院大学総合研究所主催の上記シンポジウムが開催されます。前半の基調講演では、財団法人東京市政調査会理事長の西尾勝氏より「道州制への課題と展望」と題した講演が予定されています。

また後半では、上田埼玉県知事を含む4名の各界の代表による、このシンポジウムのテーマ「道州制を問う - 新たな府県と市町村 - 」と題したパネルディスカッションが開催されます。

道州制について、その意義や背景、メリット・デメリットなどの多くの課題について徹底討論を行うとあります。定員は400名で参加は無料とのことです。詳細は「聖学院大学総合研究所ホームページ」をご覧ください。(B)

聖学院大学総合研究所HP

<http://www.seigakuin-univ.ac.jp/souken/symposium/sympo070426.html>

ご意見・掲載希望

今月号のeシンキングはいかがでしたか?今月号から新たに「政策インフォメーション」のコーナーを設けました。自治体を取り巻く様々な課題に関するシンポジウム、セミナーなどの開催情報をご案内していきたいと思っておりますので、「これは」という情報がありましたら下記担当までお寄せください。

また、各コーナーでは皆様からの参加レポートなどの情報提供を随時募集しています。「これは記事になるかな？」というものがありましたら、お気軽にご連絡ください。

[e シンキング / 毎月 15 日発行]

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部 (河原塚・小澤)

〒331-0804 さいたま市北区土呂町 2 - 24 - 1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp>

E-Mail: jinzai03@hitozukuri.or.jp

=====